

平成27年6月教育委員会定例会会議録

平成27年6月29日 開催

静岡市教育委員会

平成27年6月静岡市教育委員会定例会次第

1 日時

平成27年6月29日（水） 午後2時

2 場所

静岡市役所 清水庁舎 3階 第1会議室

3 日程

(1) 開会

(2) 会議録署名人の決定

(3) 教育長の報告

(4) 議案

議案第7号 教職員の人事について

議案第8号 教育委員会職員の人事について

議案第9号 教育委員会職員の人事について

議案第10号 委員の委嘱について（静岡市社会教育委員）

議案第11号 委員の解嘱及び委嘱について（静岡市図書館協議会）

(5) その他

(6) 閉会

平成27年6月教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 平成27年6月29日（水） 午後2時開会
- 2 場 所 静岡市役所 清水庁舎 3階 第1会議室
- 3 出席者 教育委員 委員長 佐野 嘉則 委 員 伊藤嘉奈子
委 員 伊澤 三郎 委 員 高野 康代
委 員 橋本ひろ子 教育長 高木 雅宏

事務局

教育局長	池谷 眞樹
教育局次長	森下 靖
教育局参与	山田 欣也
参与兼教育総務課長	高津 祐志
教育総務課教育力向上政策担当課長	市川 靖剛
教職員課長	月見里茂希
教育施設課長	妻木 明仁
学校教育課長	小林 文人
参与兼学事課長	廣瀬 陽
参与兼学校給食課長	森下 修一
教育センター所長	瀧浪 泰
中央図書館長	矢澤 嘉章
教育総務課課長補佐兼総務係長	秋山 知
教育総務課調整係長	小林以津子
教育総務課主査	宇佐美亜希

4 日 程

(1) 開会

佐野委員長 ただいまから、平成27年6月教育委員会定例会を開催します。

(2) 会議録署名人の決定

佐野委員長 本日の会議に関する会議録の署名人を橋本委員に指定

(3) 教育長報告

高木教育長 資料「6月定例会 教育長報告」により報告

(4) 議事

佐野委員長 本日は、議案5件について御審議をお願いします。

なお、議案第7号、議案第8号及び議案第9号は、人事に関する案件です。また、その他の報告で個人情報を含むものがあるとのことです。これらについては、旧地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項のただし書の規定により、非公開の扱いとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

佐野委員長 皆様に御承認いただきましたので、これらについては非公開の扱いとします。

なお、非公開案件の審議につきましては、公開審議の後に行うことといたします。

<議案第10号 委員の委嘱について（静岡市社会教育委員）>

教育総務課長 議案説明

高野委員 今年度の社会教育委員の会議についてですが、年間何回開催することを予定していて、どんな内容を議論していただくのか、意見をいただくのか、諮問する事項があるのか、今、分かる範囲で教えてください。

教育総務課長 昨年とほぼ同様で、年に3回会議を開催する予定です。まず、1

回は、研修会を開催します。審議の内容ですが、各種団体への補助金の支出について等を予定しています。

高野委員 各種団体への補助金交付についての審議は、毎年度、行っていますか。

教育総務課長 はい、そうです。社会教育団体への補助金交付が適正であるかどうかを審議していただいています。

佐野委員長 他に政策的な事を審議することはありますか。

教育総務課長 政策的なことを審議することはありません。

高野委員 教育委員会の点検・評価についての学識経験者との意見交換でも、学社連携、つまり、学校教育の分野と社会教育の分野との連携が重要であるとの意見がありました。それに当たって、社会教育委員を活用する方法を考える必要があると思います。生涯学習については、市長部局で実施していますので、市長部局の担当課が中心となって進めていくと思いますが、例えば、図書館は教育委員会が所管する重要な社会教育施設ですし、学社連携をするに当たって社会教育委員会議を活用することができたらよいと思います。

佐野委員長 社会教育委員の会議で審議するのが、補助金の交付の適正だけではもったいないと思います。社会教育委員のお知恵を借りる場が、もう少しあればよいですね。

伊澤委員 これだけのメンバーがいますからね。

高野委員 生涯学習の分野については議論されていますか。

教育総務課長 生涯学習については、生涯学習推進審議会が置かれていますので、主に、そちらで議論されています。

高野委員 それでは、社会教育委員は、先ほど御説明いただいたような事項を審議しているということですね。

教育総務課長 社会教育委員も、いろいろな見地から社会教育全般に関わる事項について調査研究をしたり、意見を述べたりすることはできます。こちらから要請して意見をもらうこともできます。

高野委員 第2期教育振興基本計画の中でも、学校教育と社会教育が連携して実施する事も多いと思いますので、そのようなことについて社会教育委員の会議のテーマとしていただいて、意見をいただくことについても検討をお願いします。

教育総務課長 はい、それはできると思います。

高木教育長 私も、社会教育委員の会議には、時間の許す限り参加しています。教育委員会の会議と同じように、審議して議決をいただかなければならない事項もありますが、意見交換の場もありました。委員の中には、実際に、NPOのような形で組織をつくって取り組んでいるリーダーや、個人的に活動を行っている方がいますので、その方が実践発表をして、それについて意見交換をすることもありました。会議の時間を有効に使っているという印象を持っています。高野委員が言われたように、社会教育委員と教育委員会が連携するという場はありませんでした。社会教育委員から意見をいただくことは大事だと思いますので、事務局とともに、そのような場を設けることについて検討していきます。

佐野委員長 議案第10号については、原案どおり議決してよろしいでしょうか。

各委員 承認。

<議案第11号 委員の解嘱及び委嘱について（静岡市図書館協議会）>

中央図書館長 議案説明

高野委員 今年度の静岡市図書館協議会の会議ですが、年間何回ほど開催を予定していて、どんな内容を議論するのか、今、決定していることを教えてください。

中央図書館長 第1回目の協議会を来月開催する予定です。議題は、昨年度の事業報告と今年度の事業計画、決算見込み等についてです。そして、昨年度も、お話がありましたが、図書館への入館者数の考え方について伺います。また、昨年度は、視察として山梨県立図書館へ行っていましたので、その感想をお聞きます。今年度の秋には、静岡県図書館大会が開催されますので、そちらに視察に行ってください。

高野委員 年間の会議の開催回数は、どのくらいですか。

中央図書館長 2回です。

高野委員 では、2回目は、年度末に開催する予定ですか。

中央図書館長 例年は年度末ですが、今年度は改選がありますので、10月に開催する予定です。

佐野委員長 議案第11号については、原案どおり議決してよろしいでしょうか。

各 委 員 承認

<議案第7号 教職員の人事について> (非公開)

教育総務課長 議案説明

各 委 員 承認

<議案第8号 教育委員会職員の人事について> (非公開)

教育総務課長 議案説明

各 委 員 承認

<議案第9号 教育委員会職員の人事について> (非公開)

教育総務課長 議案説明

各 委 員 承認

(5) その他

○コミュニティ・スクール新規研究校の概要について

教育総務課長 説明

伊藤委員 全ての学校に募集を呼びかけて、2校しか応募がなかったということでしょうか。

教育総務課長 はい、手を挙げてくれたのは、この2校でしたので、2校の意見

を尊重したいと考えました。以前、協議していただいたときに、各区に1校ずつという計画をお話ししました。今回の応募結果では、清水区に2校ということになりますが、清水辻小学校は、既にコミュニティ・スクールを実践している清水江尻小学校と同じ中学校区にありますので、将来的に中学校区単位でのコミュニティ・スクールを目指す取り組みにつながればよいと事務局では考えています。

伊藤委員 今後のスケジュールとしては、研究期間を平成28年度から平成29年度までとして、2校でスタートするということですが、これから、もっと研究校を増やすことについては、どのようにお考えですか。

教育総務課長 引き続き、手を挙げてくれる学校を探して、コミュニティ・スクールの取組を広げていきたいと考えています。

伊藤委員 来年度から研究を始めるのは、この2校だけですか。

教育総務課長 はい、川原小学校と清水辻小学校の2校です。

伊藤委員 再来年度に向けて、また、募集をするのですか。

教育総務課長 今年、清水江尻小学校が準備期間を終えて、発表を行いますので、それを皆さんに見ていただき、コミュニティ・スクールについて研究してもらって、来年度、手を挙げてくれる学校が出てくるとよいと思っています。

伊藤委員 では、平成28年度から平成29年度にかけて、この2校でしか研究をしないというわけではないのですか。

教育総務課長 そういうわけではありません。

伊藤委員 分かりました。応募した2校には、ぜひ、がんばっていただきたいと思います。この2校の校長は、それぞれの学校に赴任して何年目になりますか。

教育総務課長 川原小学校の校長は2年目、清水辻小学校の校長は今年異動して1年目です。

伊藤委員 では、どちらの校長も、来年も、コミュニティ・スクールについて、がんばっていただける見込みだということですね。

教育総務課長 そうですね。

伊澤委員 江尻小学校が研究校になった時は、比較的、地域と近くにある学校だという印象があって、コミュニティ・スクールとしての雰囲気を整っていたように思います。今回の場合、課題を解決するためにコミュニティ・スクールにするものと捉えられます。もちろん、今現在、地域とのコミュニケーションが取れていないというわけではなく、ある一定のレベルにはありますが、今後、子どもたちのために、なお深めていくために手を挙げてくれたのだと思いました。もしかしたら、環境が整っている学校は他にもあるのかもしれませんが、この2校の校長が先頭になって手を挙げてくれたのですから、教育委員会としては積極的にバックアップしなければならないと思います。明確な課題を持っていますので、そのことはコミュニティ・スクールの推進していく上では良いことだと思います。

高木委員長 清水江尻小での研究成果を昨年度3月に発表しました。そのことによって、コミュニティ・スクールはすごいのだ、こんな良いことがあるのだ、ということが広まったと思います。その発表会には、多くの校長、PTA役員が参加してくださったので、心が動かされたという実態があります。その結果を、各学校で検討して、実際に手を挙げるまでの決断に至らない学校が多かった中で、この2校が手を挙げてくれたという現状です。清水江尻小は、かなり練度が高い中でここまで進んでいますので、それをお手本にすると、手を挙げるにいくのかもしれませんが、今年度は、この2校に準備に入ってもらいますので、年度末に、どちらかの学校に、各学校がそれならできるかもしれないと思うような形式で発表をしてもらって、手を挙げる学校が増えるようにしたいと思います。伊澤委員がおっしゃったように、学校が課題を持っている以上は、そこに手助けをしなければ進まないと思います。依頼をするだけでなく、教育委員会もともに寄り添いながら進めていくということになります。清水江尻小の進捗を見届けながら、新たに教育委員会が手取り足取り進めていくとなると、手を挙げた2校で進めていくことが妥当ではないかという議論を事務局内でしました。

伊澤委員 辻地区は、連合自治会長も替わったのですよね。これまでも、江尻地区と辻地区で協力し合って進めていきたいね、という話をしていました。今回、校長も替わって、新しい校長と新しい連合自治会長で取り組むことになるとと思いますが、スムーズに進んでいくと思います。

高木教育長 先ほど、教育総務課長からも提案がありました。いろいろなスタイルの静岡版コミュニティ・スクールのモデル校になるとよいと思います。基本としては、区に1校ずつという誰にでも分かりやすい形を計画しましたが、清水辻小学校が手を挙げてくれたことで、隣の清水江尻小と切磋琢磨して啓発する中で、1つの中学校区でのコミュニティ・スクールに発展するのではないかと期待しています。静岡市の小学校、中学校のコミュニティ・スクールのスタイルを作ってもらえたら、静岡版コミュニティ・スクールにつながっていくだろうと大きな期待感があります。伊澤委員からも話がありましたが、江尻地区と辻地区とが連携する中で組織が出来上がって運営されるのではないかという思いを持っています。

伊澤委員 点検・評価について御意見をいただいた常葉大の安藤教授が、中学校区単位でコミュニティ・スクールが行われないと、別の小学校区から同じ中学校へ進学する子どもたちの間で差が出てしまうことがあるとお話しされていました。清水辻小と清水江尻小のどちらの子どもも清水一中に進学するわけですから、そのようなことがないように、同じような形でコミュニティ・スクールを進めていけたらよいと思います。

伊藤委員 川原小ですが、学校応援団を確認しましたが、コーディネーターのいる学校ではありませんね。コーディネーターは、長田西小に配置されていましたよね。連絡員が配置されているのでしょうか。コミュニティ・スクールを進めていく上では、学校応援団も大事だと思いましたが、いかがでしょうか。

教育総務課長 校長が手を挙げてくれたところですので、詳細な調整は、これからしていきます。手を挙げてくれたということは、校長も、ある程度の目安は、感覚的に持っていると思いますので、それを具体的にするように、これから詰めていきます。

伊藤委員 支援が必要だと思います。

教育総務課長 はい、支援を行います。

高野委員 どちらの学校も支援が必要だと思います。川原小は、課題解決型ということで、多くの課題が挙げられています。清水辻小の場合は、高齢化など課題はあるとしても、ある程度、地域の協力のベースが出来ていると思います。川原小は、そういったことも含めて課題解決に向けて取り組むということで、これまでと違う方向性もありま

すので、ぜひ、配慮していただきたいと思います。

佐野委員長 学校から自主的に手を挙げていただいています、教育委員会の支援は積極的に行う必要があると思います。

高木教育長 そのとおりだと思います。

伊澤委員 川原小からは、どの中学校に進学することになりますか。

高木教育長 長田南中ですね。

佐野委員長 これからも、手を挙げてもらえる学校が増えるようにしていく必要があると思います。なぜ2校にとどまったのかということを検証し、各校が手を挙げられない理由をなくしていく作業も必要になると思います。

高野委員 川原小は、課題解決に向けたコミュニティ・スクールということですので、課題解決の目途がつくと学校の側もやる気が出ると思います。

伊澤委員 そうですね。ひとつでも具体的に課題が解決されるとやってみようという気持ちになりますね。

高野委員 ただ、課題をひとつ解決するのも大変なことだと思いますので、最初から、あまりハードルを高くせずに、どんなに良くなったのかということを経験、他校に情報提供してはいかかかと思っています。

高木教育長 そういう意味でも、教育総務課の担当者と学校現場がとともに二人三脚で進めていくという体制を大事にしたいと思います。

この報告が、対外的にも、川原小学校と清水辻小学校をコミュニティ・スクール新規研究校とすることについての正式発表ということになりますか。

教育総務課長 そうなります。

佐野委員長 では、この件は以上でよろしいでしょうか。

各委員 了承

○体罰への対応について（非公開）

教職員課長 説明

各委員 了承

(6) 閉会

佐野委員長 以上で、平成27年6月教育委員会定例会を閉会します。

午後6時47分